



ミュンヘン便り ～自転車通勤～

ミュンヘンでは盛んな自転車通勤、以前に筆者の自転車通勤路をご紹介しましたが、去年引越したので、新たな自転車通勤路をご紹介します。現在の自転車通勤路は、イングリッシュガーデンの南部分を突っ切っていきます。四季折々の自然の変化を楽しめるこのルートを通して自転車通勤できるのは快適です。もっともこの時期は天気との相談が必要ですが。

イングリッシュガーデンとは、ミュンヘン市民の憩いの場となっている市民の森です。1789年に作られ、ウィキペディアによれば面積は3.7Km²、イザール川の西側に沿って南北に細長く伸びています。イングリッシュガーデンは、日比谷公園やセントラルパーク、ハイパークのような位置づけ、イザール川は、賀茂川やセヌ川のような位置づけでしょうか。ところどころに芝生が広がり、人々がゴロゴロできるようになっていますが、全体的にはこんもりとした森で、そこにはEisbach（アイスバッハ）という名の小川が流れ、湖もあります。そこではおそらく定住している(?)鴨の他に、様々な種類の渡り鳥、例えば白鳥、ゲースを見ることができます。他にも様々な渡り鳥を見ることができるのですが、筆者が鳥の名前を知らないのをごで紹介できないのが残念です。

平日の早朝には、出勤前にジョギングする人を多く見ます。夕方、特に夏の夕方には、ヨガ教室などのトレーニング教室が芝生の上でしばしば開催されています。名前の通り氷

のように冷たいアイスバッハは、夏になると水を楽しむ人で芋の子を洗うがごとき状況となります。森の中の小道は、季節を問わず、天気の良い週末は家族連れや友達同士で散歩する人々で一杯になり、人々の間を自転車で通過するにはかなりの忍耐力とバランス力を要します。

写真は、この秋のある朝の通勤途中の一コマ。たくさんゲースが、道や芝生で忙しく朝食を取っていました。皆食べるのに忙しく、人間との距離1mほどでも食べることに集中しています。冬に備えてたくさん食べていると見え、丸々としておいしそうなゲースたちです。ドイツではゲース料理もあるので、煮込んだ紫キャベツとジャガイモ団子を添えて、赤ワインソースをかけて食べる伝統的な秋冬料理の一つです。

イングリッシュガーデンを自転車で通勤するのはとても気持ちいいのですが、いくつか注意点があります。まず、馬糞に注意しなければなりません。イングリッシュガーデンの中には乗馬クラブがあり、そのためと思われる馬糞が頻繁に道の真ん中に堂々と残されています。乾燥して土の一部のようになっていれば自転車で踏んでもさほど問題ないかもしれませんが、新鮮なのが多いのです。警官がイングリッシュガーデンの中で馬に乗ってパトロールしていますので、その馬の落とし物もあるかもしれません。ちゃんと拾ってほしいものです。道で馬に遭遇した時には、馬を驚かせないように、自転車の速度や馬との距

離に注意します。

犬を連れて散歩をする人が多く、その際に犬が綱につながれていない場合も多々あるので、犬の近くを通るときには犬の動きに要注意です。ある朝、自転車で事務所に向かっているときに、前方からつながれていないチワワが近づいてきました。すれ違うと思われた瞬間、チワワは90度進行方向を変え、筆者の進路を横切りました。チワワはもともと狩猟用の犬だったようで、動きがとても速いのです。反応しきれなかった筆者の自転車は、前輪がチワワの上を通過した後で停止しました。チワワは飼い主に鳴きながら走り寄り、飼い主は当然憤慨し、筆者は謝って保険番号を伝えておきましたが、何となく腑に落ちないので元同僚の親切な弁護士Dr. Wに電話しました。

筆者：「イングリッシュガーデンを自転車で走っていてチワワをひいてしまったのですが。」

Dr. W：「チワワはつながれていましたか？」

筆者：「？」「いいえ」

Dr. W：「それならあなたには何の責任もありません。心配無用です！！！」

Dr. Wはきっぱりと言いきり、筆者のそれ以上の質問は全て無用と言わんばかりだったので、筆者はそれ以上聞き返すこともなく受話器を置きました。念のために保険会社にも電話を掛けたのですが、上述と同じ問答の結果、保険会社も満足そうに電話を切りました。この保険とは、「他人に与えた損害に責任があり、その損害を賠償する場合の保険」であり、ドイツで真っ先に加入すべき保険とされています。例えば、筆者は引っ越しの際に古い住居の古い便器に何か当たってヒビができたために、新しく高級な便器をつける費用を支払うことになりましたが、その費用はこの保険でカバーできました。結局、チワ



ワに関しては、つないでいなかった飼い主の責任であるらしく、チワワ（内臓の機能がちょっと弱っていた）の治療代は飼い主が自己負担し、チワワはすぐに元気になりました。動物の生命力は強いですね。

イザール川沿いにはよく整備された自転車道が延びています。バイエルン南部のイザール川の源流から、イザール川がドナウ川と合流する合流地点へ。さらにそこからドナウ川に沿って、オーストリアとの国境の町 Passau（パッサウ）を通り、ドナウ川に沿ってウィーンへ。筆者は今年、イングリッシュガーデンからパッサウまでの自転車旅行を試みました。その時のお話はまたそのうちに。それでは皆様、良いお年をお迎えください。Guten Rutsch ins neue Jahr!

筆者紹介



稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、GIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。

1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年

11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe設立。日本企業・ヨーロッパ企業からの特許出願業務・中間処理業務・異議申立・鑑定・特許無効化の手続・侵害品ウォッチング・契約書作成・係争案件などを扱う。

趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。